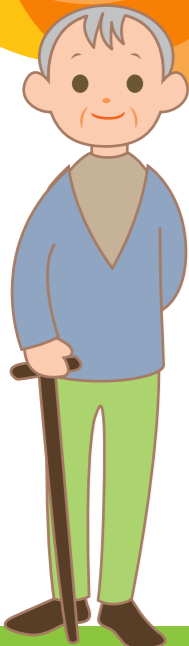


## SITUATION.

### 現在の生活状況について



西川 誠一さん（仮名）  
72 歳

#### 身体状況

要介護度3、身障手帳2種2級  
脳梗塞による左片麻痺、  
神経因性膀胱  
年相応のもの忘れはあるが、  
日常生活には問題はない

#### 家族状況

妻と二人暮らし  
息子は札幌に居住している

#### 福祉サービス利用状況

妻が不在となる際のみ  
ショートステイ利用

#### 住まい・福祉用具の状況

2階建て一軒家  
住宅改修で廊下、トイレ、  
浴室に手すり設置済み  
シャワーチェア購入済み

西川誠一さんは、20年以上前から脳梗塞の後遺症により左側の手足に不自由がありますが、妻の京子さん（仮名）と二人で自宅で生活をしてきました。札幌に一人息子が住んでいますが遠方のため、なかなか来ることはありません。

2ヶ月前、誠一さんは前立腺腫瘍のため膀胱から出血があり、緊急手術をしました。退院し自宅に戻りましたが、入院によって少し体力が低下したように思われます。

現在、誠一さんは身体障害者手帳2種2級と介護保険制度の要介護3の認定を受けています。京子さんが所用などで札幌に行くときはショートステイを利用しますが、日常的な居宅サービスは利用していません。病院のリハビリに週2回通っているだけです。最近、家の中の住宅改修を行い、寝室からトイレまでと、トイレと浴室の出入り口と中に手すりを設置しました。

誠一さんの身体状況は、神経因性膀胱により排尿をコントロールできないため、尿道から膀胱内に細い管（カテーテル）を挿入し、尿を体外に排泄する間欠的自己導尿を京子さんが1日2～3回行っています。トイレにも杖と手すりを使って一人で歩きますが、最近は身体の動きが悪くなったようで、歩行も不安定になってきています。また、尿取りパッドも使用していますが、正しく装着することができず尿漏れがあり、廊下を濡らすこともあるため、夜間等も京子さんが起きて介助しています。

転倒の危険もあるため、夜間のみでも尿器やポータブルトイレを使用することも考えましたが、誠一さんは歩けるうちはトイレに行く事を望んでおり、京子さんは便利なものを使うと身体の筋力が低下し、ますます身体が動かなくなるのではと心配しているため、使用していません。

入浴は、ほとんど毎日自宅で行っていますが、浴槽内への出入りの際に京子さんの介助が必要です。また浴槽内から立ち上がる時に壁の手すりを使用しますが、上手く立ち上がれないため京子さんが手助けしています。身体を洗うなど自分でできることは自分で行っています。

食事は、食卓テーブルでイスに腰掛けて食べる事ができますが、口の中にたくさん食べ物を入れてしまって、むせることが多いので、必ず見守りと声かけが必要です。

誠一さんは自分の着替えを用意したり、新聞を取りに行ったりと自分で出来ることはするように心がけています。また、掃除機かけや洗濯機から洗濯物を取り出すなど、京子さんの手伝いも行うなど気にかけています。京子さん自身は、世の中には自分より介護の大変な人はいるので、まだ楽な方だと思っていますが、自分一人だけで介護しているので、自分に何かあったら…という不安が大きくなっています。



## ADVICE. 専門家からの 助言

### 安心して生活していくための 様々な方法や工夫を考えてみましょう。

#### 1 身体機能を低下させないようにリハビリを行いましょう。

誠一さんの歩行が不安定に感じ、筋力が低下しているのではないかと京子さんは心配し、筋力低下を防ぐため、出来ることはした方がよいと思っています。

病院では歩行訓練はしていないようですが、自宅での歩行が不安定で、術後の体力低下も心配されることを伝えて、歩行訓練も実施してもらおうようお話ししましょう。

また、ショートステイ利用時にも歩行訓練を行う等、身体機能を維持するためにリハビリ効果のあるサービスを増やすことを考えましょう。

#### 2 適切な住宅改修を確認しましょう。

誠一さんは左側の手足に不自由がありますが、手すり等を利用して一人で行動することができます。ただ、入浴時、浴槽内から立ち上がる際に、横の手すりだけでは一人で立ち上がることが出来ません。浴槽に面した壁にもう一つ縦の手すりがあれば立ち上がりやすくなると思われますので、検討しましょう。

住宅改修を行う際は、身体状況をよく知る理学療法士や作業療法士等の専門家にも相談し、日常生活の動作によって取り付ける位置のアドバイスを受けると良いでしょう。

また、既に設置済みの手すりについても、誠一さんの身体状況に合わせて、随時使用方法、設置位置等を検証し、適切に利用できているか確認することも大切です。

#### 3 出来ること、出来ないことを確認しましょう。

誠一さんは自分で出来ることは自分でしようと心がけています。トイレも歩けるうちはトイレに行きたいと思っていますが、尿取りパットの装着が正しく出来ていないようです。左手が不自由なため片手では正しい位置に装着できないのかもしれませんが、状況を改めて確認し、出来ることと出来ないことを確認しましょう。

#### 4 家族の介護負担を考え、二人で生活していくための 支援方法を考えましょう。

誠一さんは歩けるうちはトイレに行きたいと思っているようですが、特に夜間は、転倒の危険もあり、京子さんの身体的負担（寝不足）も大きいので、尿器やポータブルトイレの利用について、誠一さんが受け入れられるように、時間をかけて話をしていきましょう。

また、誠一さんは日常的な居宅サービスを利用していませんが、主な介護者である京子さんは、夜間も起きて介助をするなど慢性的な疲労状態にあるようです。京子さんの身体的な負担を軽減するために、定期的なショートステイの利用を考える等、誠一さんと京子さんの生活を見守り、二人の生活が続けられるよう支援を考えましょう。